

2026 年 1 月吉日

都道府県小学生バレーボール連盟

会 長 各 位

理 事 長 各 位

審判委員長 各 位

日本小学生バレーボール連盟

会長 工藤 憲

理事長 大内 賢司

審判委員長 及川 千春

小学生競技規則および取り扱いについての検証に関する協力依頼

拝啓、時下益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

平素は日本小学生バレーボール連盟のために、ご支援、ご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて過日、理事会で承認されました、「小学生競技規則・取り扱い」について、全国各地で実施される大会等において、次の通り検証を行っていく機会を設けることとなりましたのでご協力の程よろしくお願い申し上げます。

敬具

記

1. 期 間 2026 年 1 月～10 月頃まで(延長する場合あり)
2. 場 所 各都道府県で開催される研修会、大会等
3. 対 象 者 指導者、選手、審判員
4. 目 的 小学生の発達段階を踏まえながら、競技力の向上を目指し、小学生競技規則および取り扱いをできる限りシニアルールに近付ける
5. 内 容 別紙参照
6. そ の 他 ※検証結果は 2027 年度以降、小学生競技規則や取り扱いへの反映を予定しています。
※検証のための試験的導入であり、年度途中における競技規則および取り扱いの変更ではございません。
※2026 年 10 月頃に検証のためのアンケートを改めて送らせていただきます。

【問い合わせ先】 ※各ブロック委員長へ、お願いいたします。

北海道 内村 賀世	東北 三浦 敏弘	関東 浜野 陽一
北信越 前原 和博	東海 小島 輝久	近畿 徳田 幸恵
中国 近藤 宏顕	四国 小野 貴之	九州 大場 俊郎

小学生規則の検証を行う内容について

次の2項目について試験的に導入をして多角的に検証を行います。これらは、競技力と審判技術の向上を目指し、現行の小学生規則をシニアルールに寄せていくことを目的としております。

第4条 試合の進行

5.「監督は、ラリー中ベンチに座っていなければならない。」

を次のとおりとする。

ルールブック P39 5.2.3.4 より抜粋

「監督は、自チームのアタックラインの延長線からウォームアップエリアまでのフリーゾーン内で、立ちながらも歩きながらも指示を出すことができる。この時、ラインジャッジの視界を遮ってはならない」

<検証のポイント>

ラリー中に監督が立ち歩けることによって、どのような変化があったかを検証する。

- ラインジャッジの視界を遮らないことは勿論であるが、(ラインジャッジを含め)判定に影響を及ぼす事象はあったか
- マナー面に変化はあったか
- プレーへの影響はあったか(選手への指示の仕方も含む)
- どのようなメリット(デメリット)があったか

第6条 ネット付近の選手

「片方の足(両足)または片方の手(両手)がセンターラインを越えて相手コートに触れても、侵入している片方の足(両足)または片方の手(両手)の一部がセンターラインに接しているかその真上に残っていれば許される。他のいかなる部分も相手コートに触れることは許されない。」

を次のとおりとする。

ルールブック P61 11.2.2.1～11.2.2.2 より

「相手コートに侵入している片方の足(両足)の一部が、センターラインに触れているかセンターライン真上の空間にあれば、この動作が相手チームのプレーを妨害しない限り、足首より上の身体のどの部分が相手コートに触れてもよい。」

<検証のポイント>

怪我の予防やネット下の交錯が起きないようにとされてはいるが、科学的な根拠や実証データはない。ペネトレーションフォルトをシニアルールと同様に執り行うことによって、小学生のプレーや指導にどのような変化があったかを検証する。

- プレーへの影響はあったか
- 選手への指導に影響はあったか
- ペネトレーションフォルトに関わるプレー(反則)のよって、選手が負傷するケースがあったか(発生した場合は怪我の程度と、どのようなプレーだったか)
- どのようなメリット(デメリット)があったか